

病防第23号
令和7年（2025年）7月17日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察特殊報について（送付）
このことについて、発生予察特殊報第1号を発表しましたので送付します。

特 殊 報

令和7年度（2025年度）発生予察特殊報第1号
令和7年（2025年）7月17日
熊本県病害虫防除所長

- 1 病害虫名 ミシマサイコ根朽病、ミシマサイコ斑点病
- 2 学 名 *Didymella* sp.
- 3 発生作物 ミシマサイコ（セリ科）

4 発生確認の経過

令和6年（2024年）7月、県内のミシマサイコ栽培で、生育が悪く、一部枯死株が発生しているほ場が確認された。被害株の根は、皮層に亀裂が入り、暗褐色に変色して腐敗していた（写真1）。また、同時期に他のほ場で葉に黒褐色の斑点を生じ、後に葉身が枯れ上がる被害が確認された（写真2）。

いずれも病患部から分離した糸状菌を健全な株に接種したところ、それぞれ同様の病徴が再現されたため、農林水産省門司植物防疫所に当該菌株の同定を依頼した。その結果、前者はミシマサイコ根朽病を引き起こす*Didymella* sp.、後者はミシマサイコ斑点病を引き起こす*Didymella* sp.と同定された。

5 国内の発生状況

（1）根朽病

国内では、平成29年（2017年）に茨城県の試験栽培ほ場で確認され、*Didymella* sp.によるミシマサイコ根朽病と命名された（廣岡ら、2019年）。国内における詳細な発生状況は不明であるが、以前より全国的に発生しているとされている（佐藤ら、2020年）。

（2）斑点病

国内では、令和3年（2021年）に複数地域で確認され、*Didymella* sp.によるミシマサイコ斑点病と命名された（加藤ら、2023年）。国内における発生状況および根朽病の病原との異同は不明である。

6 病徴

(1) 根朽病

根に発生する。主根が地際部から暗褐色や黒色に腐敗し、根の下部に向かって腐敗が進行する。腐敗部は粗面となるか亀裂が入る。症状が進むと地上部にも生育不良となって現れるが、症状の進展は緩慢であるため、早期発見が難しい。

(2) 斑点病

葉に発生する。初め黒褐色の小斑点を生じ、次第に拡大して葉枯れに至る。

7 防除対策

ミシマサイコ根朽病、斑点病ともに登録農薬はない（令和7年7月16日現在）ため、以下の耕種的対策を行う。

- (1) 根朽病に罹病した根は伝染源となるため、発病株を抜き取って処分する。
- (2) 発生ほ場で連作すると多発するおそれがあるため、連作を避ける。



写真1 ミシマサイコ根朽病の症状（左）と同病と疑われる枯死株（右）



写真2 ミシマサイコ斑点病の症状

熊本県病害虫防除所
（熊本県農業研究センター 生産環境研究所内）
担当：江口
TEL 096-248-6490 FAX 096-248-6493